自由論題

韓国における格差と社会葛藤に対する考察

金 明中 (キム ミョンジュン)

韓国社会における世代間、世代内、男女間の格差と葛藤が深刻化している。まず、世代間葛藤の背景として考えられるのは経済的要因である。現在、韓国社会の中心とも言える 386 世代は、政治や経済に与える影響力において X 世代や Y 世代を大きく上回っている。386 世代は学業より学生運動や民主化運動に重きを置いたにもかかわらず、当時の韓国経済が絶好調だったので大きな問題なく労働市場に加わる事ができた。一方、1997 年のアジア通貨危機以降、企業の構造改革の結果、雇用環境は悪化し、その影響は当時労働市場に進入し始めた X 世帯やその後の Y 世代、そして最近の Z 世代まで及んでいる。

最近は生まれつきの不平等が拡大し、「どぶ川から龍」が出る事が難しくなるなど世代内の格差や葛藤も広がっている。さらに、韓国政府が統計的差別等により発生した男女間の賃金格差等を修正するために実施した積極的改善措置等女性活躍推進政策に対して逆差別を呼び掛ける男性が増加する等男女間の葛藤も増している。小稿では韓国における世代間・世代内・男女間における格差と葛藤の現状を把握・分析し、格差や葛藤の解消のために何が必要かに対する考察を試みる。